

# 入舟 コミ協だより

第30号

発行：'23.3.15

発行所：入舟地区

コミュニティ協議会

責任者：田村 幸夫

TEL 223-3532



## 「旧コミセンの新しい出発について

コミ協会長 田村幸夫

住みよい地域づくりの活動の場として建設された北部総合コミュニティセンターが昭和58年4月1日の開催から40年の歳月を経て、昨年の8月に解体工事が始まりました。その様子を見守った人も寂しい思いをしたのではないのでしょうか。

その長い歴史を振り返って見ると、市内のコミセンとしては一番大きな実績をのっておりました。

又、地域の人々から「おらってのコミセン」と下町言葉で親んでもらっておりました。利用者数も年間16万人の実績をあげておりました。

その旧コミセンも性格もがらりと変わり、令和5年の8月に下町地区の人口減少対策と買い物対策を考えた避難所を備えたホームセンターとスーパーとして新しくオープンする事になりました。地域の皆さんも楽しみに、又、おいに期待をしているのではないのでしょうか。





## ふれあい下町ウォーキング 福祉文教部長 鈴木 正雄

コロナで集まり、外出が出来ず、とじこもりがちな数年でしたが、本年は、快晴のもと「下町再発見」として春と秋に「ふれあい下町ウォーキング」を開催しました。

春、秋とも約65名の参加で、シティーガイドさんの説明を聞きながら、普段見られない下町の神社仏閣や千体仏、千国船の模型等々を見学しながら、徐々にコロナを忘れて楽しいウォーキングでした。何十年も下町に住みながら、何気なく通り過ぎていた神社仏閣が、湊町新潟の歴史を物語っていて、下町の宝の発見でした。



参加者のアンケートでも

- ・天気がよく、皆で歩いて楽しかった。
- ・シティーガイドさんの説明でいろいろな事がわかり楽しかった。
- ・下町の歴史を知り、新鮮な発見となった。
- ・楽しかった。この企画は続けてほしい。

この次も絶対に参加します。等々大好評で福祉文教部員一同も3年ぶりに大勢の人の楽しそうな様子、笑顔をみられ、開催してよかったと思っています。

下町にはまだまだ知らないお宝がいっぱいあるようです。楽しく歩いて、下町の良さを発見し、ますますこの街が好きになるような企画を開催して行きたいと思っていますのでご期待ください。次回も大勢の人の参加をお待ちしています。

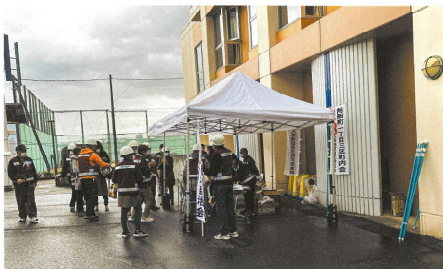


## コロナ禍の避難訓練 自主防 会長 玉木幸一

防災訓練が10月30日(日)の午前9時から12時に柳都中学校体育館を使用して、「栗島沖を震源とする地震が発生し、津波に伴う避難指示が発令された」で開始された。体育館前での避難者受付、人数の把握、コロナ禍での検温、消毒等、防災会役員の指導で進化した。

また、体育館内では避難所内での衛生、安心、安全を考慮した、ダンボールベッド(120kgまでの耐久力有り。)、パーティション(家族4名程度、に対応の仕切り。ダンボールベッドなら2個収容可。)の設置訓練をし、避難所の生活体験を確認した。

なお、各資機材は災害発生時に市関係機関から各避難所へ支給されます。



## 令和4年度下半期の「入舟地区防犯協会」 入舟地区防犯協会 会長 高橋誠一

10月9日「シティマラソンボランティア活動」当会が入舟地区代表して、役員・ボランティア合わせて25名で街頭見廻りに応援に参加いたしました。

10月19日「戸別訪問指導による特殊詐欺・盗難防止広報活動」中央警察署生活安全課・中央区総務課と今年も西湊町通にある清水フードの来店者



及び町内会住民に対して特殊詐欺への注意、及び自転車傷害保険の義務化について約200名の方に啓発品を配って指導しました。

## 2月17日アニメ「めぐみ」上映会

当会は年間4回コミ協合同バトロールを行っておりますが、この日は悪天候の為急遽北朝鮮工作員に拉致され未だ奪還されていない横田めぐみさんのアニメの上映会といたしました。当会はこの事件が風化されないよう定期的に語り続けたいと思います。



## 開校10周年を見据え 新潟柳都中学校校長 阿部 修

コロナ禍ではありますが、皆様の温かなご支援の下、感染症対策を行いながら、生徒・教職員一丸となって教育目標「未来を切り拓く生徒」「自立・創造・貢献」を達成すべく、今できることを工夫し、進化・深化させるよう教育活動に取り組んでいます。本年度の当校特色である「地域に学び地域に貢献する活動」は、中央区の重点事業である「しもまち活性化事業」の地域ボランティアに延5回、2学年総合的な学習での職場体験を2日間20事業所。3学年の社会科授業で地元21の商店・企業様へのインタビューと事業の学び等、しも町、地域を考え、学ぶことに取り組みました。

新潟柳都中学校は米年度開校10周年を迎えます。しも町の伝統、特色を活かし、新たな10年を切り拓く教育を進化、展開する暁年にして参ります。今後も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

## 日和山小学校『笑顔いっぱい日常』 地域教育コーディネーター 小島良子

令和5年に入ってもコロナ感染対策を考えながらの活動が続いています。

1月25日、新潟は大寒波・猛吹雪の中、1年生の「昔の遊び体験」に日和山応援隊(ボランティア)7名が参加してくれました。

活動内容は、けん玉・コマ・おはじき・お手玉・あやとり。入舟地域にお住まいのSさんはあやとりを担当。子どもたちにあやとりの遊び方を楽しく丁寧に教えてくださり、さらに1年生全員分のあやとりを編んでプレゼントしてくれました。

子どもたちと先生方は大喜び！外出しない選択をしてもおかしくない悪天候でも、子どもたちのためと学校に来てくださったその思いに感動です。





## コミ協の活動状況

総務部会 高山ゆり子

- ①4/3 宮浦中・ジュニアレスキュー隊への支援  
(防災士2名)
- ②5.25認知症徘徊模擬訓練に参加
- (③5.29ふれあい下町ウォーク(参加65名)
- ④6.14入舟地区コミ協 合同総会 (参加65名)
- ⑤6.25青色パト出発式&春期合同安全パトロール  
(参加65名)
- ⑥9.17合同安全パトロール (参加65名)
- ⑦10.2ふれあい下町ウォーク(参加63名)

- ⑧10/8第1回防災女子カフェ。(参加 26名)
- ⑨10.9新潟シティマラソン
- ⑩10.19清水フードでの防犯活動(参加20名)
- ⑪10.30入舟地区避難訓練(各町内5名程度)
- ⑫12.17合同安全パトロール(参加32名)
- ⑬1.15 入舟地区コミ協臨時総会
- ⑭2.9柳都中ジュニアレスキュー隊への応援
- ⑮2.18(予)第2回防災女子カフェ.
- ⑯3.10(予)コミ協だより第30号発刊
- ⑰3.18(予)防犯研修会

## 会則改定について

コミ協副会長 鈴木 喬

本年の1月15日、臨時総会が開催され、新会則が可決された。今回の改訂は制定以来7回目、4年ぶりであって、ほぼ全面的に改訂された。

主要な内容は次の如くである。

- ①コミュニティ委員の範囲を確定し、総会での議決権を明確化する。コミュニティ委員は各町内会に1票、主要団体に1または2票を割りふる。現時点でのコミュニティ委員総数は69票である。
- ②役員を選出方法の変更。5名から成る役員選考委員会を設置し、会長、副会長及び監事をコミュニティ委員から選考する。選考過程の明確化と公平性をはかる。
- ③役員任期を限定し、役員に定年制を設ける。任期は2年とし、

3期6年をこえないものとする。役員は選考時点で80歳をこえないものとする。

- ④自治会・町内会連絡会、の新設。

以上により、委員増員によるコミ協活動の活性化や、女性活躍の場が広がる等を期待される。

No	団体名	定数
1	横七番町四丁目自治会	2
2	横七番町五丁目自治会	2
3	忠蔵町自治会	2
4	窪田町1・2・3・4自治会	2
5	窪田町六丁目自治会	2
6	窪田町5.7自治会	2
7	赤坂町一丁目自治会	2
8	赤坂町二丁目自治会	2
9	赤坂町三丁目町内会	2
10	早川町一丁目自治会	2
11	早川町二丁目自治会	2
12	早川町三・田町1・2町内会	2
13	稲荷町第一町内会	2
14	稲荷町第二町内会	2
15	元下島・勝川岸町内会	2
16	附船町一区町内会	2
17	附船町一丁目二区自治会	2
18	附船町一丁目三区町内会	2
19	附船第四町内自治会	2
20	附船三・重町一自治会	2
21	入船町一丁目町内会	2
22	入船二自治会	2
23	入船町三丁目町内会	2
24	山田町町内会	2
25	水戸地区自治会	2
26	みなと町自治会	2
27	西渡町通3・4自治会	2
28	開公緑町マンション自治会	2
29	稲荷町団地自治会	2
30	早川町若葉自治会	2
31	稲荷町団地職会	2
	合計	62

団体名	定数
入舟地区自主防災会	2
入舟地区防犯協会	2
入舟地区社会福祉協議会	1
中央地区口赤入舟分団	1
ラジオ体操で「長寿」	1
合計	7

## 編集後記

市立工業の建物に旧コミセンが開設して満40年、その建物も老朽化の為、取り壊しとなった。20年前のその一室でコミ協が誕生したのも、歴史の1ページであり、その後のコミ協成長の基礎となった。これらを見守ってきた旧コミセンの建物に惜別の念を表したい。

コミ協はイベントを実施しつつ、その活動を広めてきた。その一端として「コミ協だより」を会報誌として発刊した。イベント情報を中心に会員の理解を強めるため、写真付き

の短文で構成した記事で毎号、主要イベントを紹介した。毎年2回の刊行で、今回通巻30号となった。「継続は力なり」を信じて、これからも努力を続けたい。

小学校、消防署、交番、図書館、出張所の移動、移設などを経て、「旧コミセン」跡地にスーパーを誘致する跡地活用の最終段階となる。スーパーの完成をもって、約十年を要した大事業は終了する。

編集委員; 鈴木喬、高橋誠一、田村幸夫、高山ゆり子、古寺昭治、小島良子、阿部幹雄、風間幸一、宮尾益史、中川光男